

理事会報告

2025年度第2回(2025年第8回)理事会議事録

日時：2025年11月26日(水) 14:30～16:40

場所：帝国ホテル 雅の間

現地出席者：宇野隆(理事長)、溝脇尚志(専務理事)、青木昌彦、青山英史、石川仁、大野達也、小川和彦、古平毅、櫻井英幸、佐々木良平、塩山善之、澁谷景子、神宮啓一、鈴木義行、辻野佳世子、中村和正、中村聡明、二瓶圭二、村上祐司、山内智香子(以上理事)、大西洋、生島仁史(監事)、角田怜子、鈴木弘美、山内蓉子(以上事務局)(敬称略)

第38回学術大会長ご挨拶(櫻井大会長)

冒頭、櫻井学術大会長より、明日からの学術大会開催に向けての協力等への謝辞等ご挨拶をいただいた。

審議事項

1. 2025年第7回理事会(2025/10/24)議事録確認

(大野理事)

前回理事会議事録案と各検討事項に関する進捗状況が確認され、承認がなされた。

2. 会員の入会他(大野理事)

1) 2025年10月16日から2025年11月20日までの入会申請は35名[正会員16名、准会員19名]であることが報告され、承認された。

2) 2025年11月20日現在の会員登録状況について下記のとおり説明がなされた。

■ 会員総数：4509名

[正会員2,341名、准会員2,060名、名誉会員60名、賛助会員40社、国際賛助会員8名]

■ 退会者10名[正会員2名、准会員8名]

■ 正会員内訳：医師2,146名、歯科医師44名、医師以外151名(医師比率91.67%)

■ 男女比率：正会員[男性1,859名、女性482名]、
准会員[男性1,557名、女性503名]

■ 専門医数：1,507名[男性1,213名、女性：294名]

3. JASTRO研究課題成果物「体表面画像誘導放射線治療ガイドライン2026(案)」学会への譲渡、ガイドラインとしての発刊について(村上理事)

2024・2025年度研究課題「体表面画像誘導放射線治療(SGRT)の国内適正利用に資する研究」(代表者：山梨大 齋藤正英会員)において、2024年度中間報告における研究成果物「体表面画像誘導放射線治療ガイドライン(GL)2026」案が完成し、JASTROへの帰属(譲渡)

を要望している旨が学術委員会へ提出され、当委員会での審議ではGL発刊は賛成となった事、今後の手続も含め問合せがなされた。

通常の当会のGL発刊手順としては、①委員、協力団体等の選定(理事会承認)②案作成③GL委員会等査読④修正⑤公認GLとしての理事会審議といった手続きとなり、①②の手順が研究班の中で実施されているため、課題研究としての最終成果報告後、手順に則って「適正利用指針」等としての評価・公認を行うべきとの意見が出された。現状の内容においては有益な分野であり、成果物は適正使用指針として見直し、研究期間内でも早々に手続きを進める旨が確認された。

また、現在の学会ホームページ「公認ガイドライン」ページは、ガイドラインと、企業製品の適正使用指針等が混在しているため、GL委員会へ区分整理が依頼された。

4. AIアドホック委員会：Ⅲ期肺癌症例データを使用したAI研究の開始許可について(村上理事)

データベースに登録されたⅢ期肺癌症例データを使用したAI研究計画書が、以下の実務担当4施設より提出され、研究開始が承認された。

- ・有村秀孝会員(九州大)「臨床支援のためのT病期自動分類システムの開発」
- ・中村光宏会員(京都大)「条件付き拡散モデルによる肺腫瘍縮小予測のための画像生成モデルの開発」
- ・今野伸樹会員(広島大)「臨床的リスク層別化を活用した放射線肺臓炎のRadiomics解析」
- ・河原大輔会員(広島大)「腫瘍領域を細分化した解釈性の高い新規AI-Radiomics予測システムの開発」

5. 放射線治療専門医資格返上等申請(古平理事)

放射線治療専門医資格について1名の資格返上の申請があった旨説明され、承認された。

6. 「強度変調粒子線治療ガイドライン」最終案、膀胱癌診療ガイドライン作成委員推薦依頼(青木理事)

■ GL委員会、粒子線治療委員会にて再査読、内容確認後の最終校正紙が提示され、承認がなされた。

[表紙・カバー：JASTROのクレジット表記なし。前付け：当会査読+制作費一部協賛の旨記載あり]

■ 日本泌尿器科学会から「膀胱癌診療ガイドライン(2027年)」(2019年改訂版)に向けて、作成委員の推薦依頼があり、石川仁理事(QST病院)、西岡健太郎代議員(北海道大学)をGL委員会から推薦する旨提案、承認がなされた。

7. 日本食道学会共同企画共催依頼（鈴木理事）

日本食道学会から、第80回学術大会合同企画（2026年6月25-26日/福島県立医科大/テーマ「放射線治療の高精度化による治療の適応拡大」）の共催依頼があり、承諾する旨承認された。

8. 特任理事規程案（溝脇専務）

ダイバーシティの推進、理事会運営の活性化を目的とした、法律上の理事には該当しない「特任理事」を置く旨を前回理事会で決定したが、設置に向けて「特任理事規程（案）*」が提案され、内容が承認された。

*規程概要：「第3条任期：委嘱時の理事長の任期と同一、再任は可。上限は通算5期まで」

第2条選任・解任「2資格：本法人の会員（正・准会員）で、役員経験者ではないこと、就任翌年3月末時点で64歳未満」、「選任・解任は共に理事会決議」

9. 用語委員会委員 追加推薦（辻野理事/大野理事）

2025年1月理事会承認以降の用語委員会委員の追加について、辻野委員長より、用語集改訂に向けて、医学物理関連の用語充実のため、以下の通り、推薦があり、承認がなされた。

・矢田隆一会員（浜松医科大学）非代議員/准会員/医学物理士

その他審議事項

10. 理事会開催スタイル検討について

（宇野理事長/溝脇専務/大野理事）

従来の理事会開催スタイルは、現地出席を原則とし、役員の職務状況に応じてWEB出席可能としていたが、特任理事、若手会員理事会陪席、外部役員制導入によって、旅費や会議室の費用が増大し予算が大幅に増える可能性があり、今後は「原則、現地開催の理事会は、1月、4月JRS、7月（予算編成時）、11月」とし、その他の理事会は「WEB出席を原則とする」旨が決定された。また、WEB開催のスムーズな運営のため、資料共有等は事務局で行う等予め明確化するよう監事より指摘があった。

報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告

（宇野理事長/溝脇専務理事）

現在までの業務状況・活動報告がなされた。

2. DB委員会：症例登録事業（JROD）進捗状況

（中村和正理事）

実施中の症例登録調査*について、2025年11月19日時点で登録施設数66施設（回答率39.3%）、症例数41,270件で、登録への協力が依頼された。

*登録期間：2025年9月-11月末日/登録対象：前年（2024/1/1-12/31）に放射線治療を開始した症例、治療実績対象

3. 緩和的放射線治療委員会：緩和ケア研修会e-learningモジュール改訂、ガイドライン進捗（塩山理事）

■日本緩和医療学会「緩和ケア研修会e-learningモジュール改訂」WG当会代表大久保悠委員（佐久医療セ）からの報告書が提示され、改訂の方向性について、内容は卒後2～5日目研修医の学習すべき基本的緩和ケア領域とし、医師・歯科医師全てに対して緩和的放射線治療が必修化されること、本改訂案は12月15日厚労省提出のスケジュールであり一旦提出となるが、1月理事会での修正も本番に反映可能である等が説明された。

■緩和的放化疗ガイドライン（和文「がんによる症状の緩和のための放射線治療ガイドライン」英文“Guidelines on Palliative Radiotherapy for Cancer-Induced Symptoms”）の進捗について、既に草案作成の段階まで進み（総論10テーマ、10CQの推奨・解説、5コラム約100頁/B5判/出版社：学研）、今後は当会ガイドライン委員会での査読と12関連学会での外部評価、パブコメ募集を実施、2026年6月開催の緩和医療学会でのお披露目、宣伝を計画している旨が報告された。

4. 健保委員会：中医協対応報告、JRS2026「診療報酬改定提案セッション」進捗報告（櫻井理事）

■2026年度次期診療報酬改定に関する中央社会保険医療協議会（中医協）への説明資料が提示され、地域がん診療拠点病院指定要件である「強度変調放射線治療（IMRT）の実施状況」、「IMRTと遠隔放射線治療計画」（厚労科研大西班解析「医師2名の内1名が遠隔の場合でも品質に差がないとの示唆」等）を記載した資料により説明を行った旨報告された。

■難治性心室性不整脈に対する定位放射線治療は現時点で薬事承認がおりていないので評価対象外となった旨報告された。

■2026 JRS総会「私が考える！令和10年度診療報酬改定提案セッション」に放射線治療演題「悪性腫瘍による脊髄圧迫に対する緊急放射線治療加算（代表：小宮山委員）」がFinalist（他、画像診断2件、IVR1件）となり、優勝の場合はJASTRO健保委員会で令

和10年診療報酬改定案としての申請の有無を検討する旨報告された。

5. 教育委員会：夏季セミナー、がん放射線治療看護セミナー開催報告等（山内理事）

- 第26回放射線腫瘍学夏季セミナー（齋藤淳一世話人/現地：2025年8月2-3日/富山国際会議場/有料参加149名、オンデマンド配信：8月20日-9月24日161名）の開催報告及び会計収支報告がなされた。[仮払金学会へ37%返金]
- 日本がん看護学会共催第43回がん放射線治療看護セミナー開催報告（和田優貴世話人/2025年11月1日/テーマ「緩和的放射線治療」/ハイブリッドANAクラウンプラザ秋田/573名）がなされた。
- その他今後のセミナー開催予定が報告された。

6. 学術委員会：2024・2025年度研究課題 中間評価等

- 2024・2025年度研究課題の中間報告（4題）評価が実施され、4題いずれも大きな問題はなく、委員会の意見を各研究者にフィードバックした旨報告された。
- 2026・2027年度研究課題の募集について、締切日を例年より早め2026年2月6日とし、申請書枠内へ下線部分「当学会研究費以外の支援経済基盤（班研究費、科研費、AMEDなど。応募中を含む。）」を追記する旨報告された。

7. 国際委員会：FARO、ESTRO、ASTRO、日中韓、日台等（青山理事）

- FARO関連：The 7th FARO Meeting（2025/11/12 Chiang Mai）について以下報告された。
 - ①総演題数326の内、日本19、口演数39の内、日本4、当会推薦：Clinical Symposium 5 H&N and GI（11/14）：坂中克行会員、古平理事/FARO LDP: 早川沙羅会員/Awards（日本）Young Investor Award 総数13: Takahiro Kanehira/Best Poster 総数11: Keisuke Usui, Hohi Moriguchi
 - ②FARO新役員 President-Elect: Dr. Mohammad Faheem (PSCO) Pakistan/Secretary General: 永田靖委員（JASTRO）が選任された。
 - ③FARO2027:投票により日本に決定（松尾幸憲大会長 近畿大学/大阪 Date: May 26-28, 2027）。
 - ④FARO-ESTRO Congress（EMA）（2026/8/28-30, Singapore EXPO）:10分野の演者を当会より推薦。（前回理事会審議承認）
- ESTRO関連：ESTRO 2026, Stockholm（May 15-19）:7分野の演者を当会より推薦（同上）。
- ASTRO関連：2026 JASTRO大会 ASTRO-ESTRO-

JASTRO ジョイントシンポとして開催の方向を確認。

- 日中韓 Trilateral Symposium：第38回JASTRO大会（2025/11/28 10:40-12:10）にて開催
- 日台 Symposium 関連：次回第11回合同シンポ（日本神戸2026/9/5、佐々木良平世話人）開催予定。

8. 用語委員会：JASTRO 用語集PDF版（2025年版）ホームページ掲載（辻野理事）

会員へのパブコメ募集による修正を経て新規用語49語と修正を加えた2025年版ver1.0が完成し、これに検索用とダウンロード用PDF版を学会ホームページにアップの予定である旨報告された。

9. 放射線治療専門医制度委員会：日本がん治療認定機構関連学会連絡委員会（古平理事）

社）日本がん治療認定機構2025年度 関連学会連絡委員会（計54学会/2025年10月9日）への出席報告が資料配布と共になされた。

10. 粒子線治療委員会/健保委員会:先進医療会議からの指摘事項回答他（石川理事/櫻井理事）

- 先進医療会議への報告書「先進医療A粒子線治療（陽子線、重粒子線）」の内、「少数転移性腫瘍におけるリンパ節転移、転移性肺腫瘍、原発性肺癌：T3N0M0（臨床病期IIB期）肺癌、局所進行食道癌」に関する主として優越性等に関する質問があり、回答書案が提示され、既に理事長・専務理事確認の元、送付した旨が報告された。更に、限局性腎癌他の質問があり、本日中に同様の手続きにて、回答を行う予定が報告された。
- 2025年10月6日開催の第5回臓器別WGリーダー会議（WEB）の報告が議事録資料と共になされた。

11. その他報告：MB19試験に関連した患者ご家族様からの抗議とその返信回答書（宇野理事長/溝脇専務/石川理事・櫻井理事・大野理事）

MB-19試験に協力いただき陽子線治療を受けられた患者ご家族様からの『小児・AYA世代の腫瘍に対する陽子線治療診療ガイドライン2019年版』（以下ガイドライン）における髄芽腫への推奨治療についての質問があり、標準治療におけるガイドラインの作成経緯や根拠資料、また当該のMB-19試験において併用の抗がん剤治療の強化に伴い、投与線量が標準的な線量から、多くの症例で低減が図られている等説明した回答書を送付した旨が報告された。

12. その他報告：マスメディア（信濃毎日新聞・読売新聞）からの取材申込への対応について

（宇野理事長/溝脇専務/石川理事・櫻井理事）

粒子線治療「各治療施設が持続可能な形で治療を提供していくための対策、診療報酬、行政の支援対策のあり方等」に関して、信濃毎日新聞と読売新聞から学会へ取材申込があり、担当の石川理事・櫻井理事にて回答案を作成、理事長・専務理事確認のもと、学会として回答を行った旨報告された。

その他

- 翌日の社員総会進行（議事録署名人、代議員提案事項回答準備等）の確認がなされた。
- また2026年第1回理事会（2026/1/16）・意見交換会の日程等について、確認がなされた。